

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3189892号
(U3189892)

(45) 発行日 平成26年4月3日 (2014.4.3)

(24) 登録日 平成26年3月12日 (2014.3.12)

(51) Int.Cl. F 1
A 4 7 K 7/02 (2006.01) A 4 7 K 7/02 C

評価書の請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 実願2014-337 (U2014-337)
 (22) 出願日 平成26年1月24日 (2014.1.24)

(73) 実用新案権者 514021320
 アイテック総研株式会社
 長野県長野市問御所町 1 2 0 1
 (74) 代理人 100128794
 弁理士 小林 庸悟
 (72) 考案者 松田 榮展
 長野県長野市問御所町 1 2 0 1 アイテック
 総研株式会社内

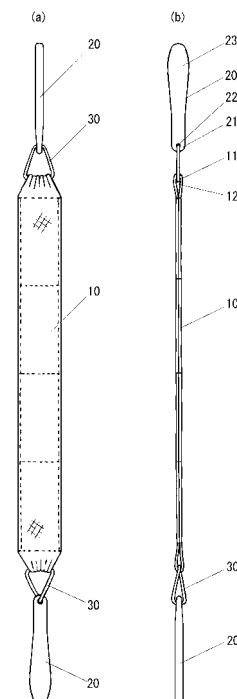
(54) 【考案の名称】 身体洗い器具

(57) 【要約】

【課題】 使用者が自身の背中の真ん中をより容易且つ適切に洗うことや摩擦することができる身体洗い器具を提供すること。

【解決手段】 肌を擦る細長帯状の布部 1 0 と、その布部 1 0 の両端に配させて使用者が把持できるように細長く設けられた柄 2 0 と、布部 1 0 と柄 2 0 とを両者の端部同士において連結する紐 3 0 とを備える。布部 1 0 の両端部 1 1 の連通空間 1 2 と、柄 2 0 の先端部 2 1 に設けられた貫通孔 2 2 とに紐 3 0 を通し、その紐 3 0 を輪にして結び、布部 1 0 と柄 2 0 とが両者の端部同士において連結されている。

【選択図】 図 1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

肌を擦る細長帯状の布部と、該布部の両端に配させて使用者が把持できるように細長く設けられた柄と、前記布部と前記柄とを両者の端部同士において連結する紐とを備えることを特徴とする身体洗い器具。

【請求項 2】

前記布部は、布素材を複数枚重ねて縫い合わせて形成され、両端部が、前記紐を通すことができる連通空間となるように前記布素材が折り曲げられて設けられていることを特徴とする請求項 1 記載の身体洗い器具。

【請求項 3】

前記布部の前記両端部の前記連通空間と、前記柄の先端部に設けられた貫通孔とに前記紐を通し、該紐を輪にして結び、前記布部と前記柄とが両者の端部同士において連結されていることを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の身体洗い器具。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

この考案は、背中を洗う際などに好適に用いることができる身体洗い器具に関する。

【背景技術】**【0002】**

従前、細長帯状の布部を備える身体洗い器具としては、片面を肌とのこすり合い抵抗の大きい布地にて形成し、且該面の短辺方向に上記布地による多数の突リブを適当間隔毎に設けて垢すり作用面となし、又他側面をスポンジなどの柔軟素材にて形成せしめて仕上げ作用面となした平面細長帯状の本体を構成し、該本体の両端に指掛部を設けたことを特徴として成る背中洗い具（特許文献 1 参照）が開示されている。

【先行技術文献】**【特許文献】****【0003】**

【特許文献 1】実開昭 54-33873 号公報（第 1 頁）

【考案の概要】**【考案が解決しようとする課題】****【0004】**

身体洗い器具に関して解決しようとする問題点は、使用者が自身の背中を洗う際や乾布摩擦を行う際には、図 3 に示すようにタオルや一般的な垢すりを使用する場合、また、従来の布部の両端に指掛部を設けた背中洗い具にあっても、その使用者の背中の真ん中をより容易且つ適切に洗うことや摩擦することができないことにある。なお、背中の真ん中は、身体の中で唯一手の届かないところであり、痒くなり、孫の手を必要とするところである。

【0005】

そこで、本考案の目的は、使用者が自身の背中の真ん中をより容易且つ適切に洗うことや摩擦することができる身体洗い器具を提供することにある。

【課題を解決するための手段】**【0006】**

本考案は、上記目的を達成するために次の構成を備える。

本考案にかかる身体洗い器具の一形態によれば、肌を擦る細長帯状の布部と、該布部の両端に配させて使用者が把持できるように細長く設けられた柄と、前記布部と前記柄とを両者の端部同士において連結する紐とを備える。

【0007】

また、本考案にかかる身体洗い器具の一形態によれば、前記布部は、布素材を複数枚重ねて縫い合わせて形成され、両端部が、前記紐を通すことができる連通空間となるように前記布素材が折り曲げられて設けられていることを特徴とすることができる。

10

20

30

40

50

【0008】

また、本考案にかかる身体洗い器具の一形態によれば、前記布部の前記両端部の前記連通空間と、前記柄の先端部に設けられた貫通孔とに前記紐を通し、該紐を輪にして結び、前記布部と前記柄とが両者の端部同士において連結されていることを特徴とすることができる。

【考案の効果】

【0009】

本考案にかかる身体洗い器具によれば、使用者が自身の背中の真ん中をより容易且つ適切に洗うことや摩擦するができるという特別有利な効果を有する。

【図面の簡単な説明】

【0010】

【図1】本考案にかかる身体洗い器具の形態例を示す（a）正面図及び（b）側面図である。

【図2】図1の形態例を用いて背中を洗う状態を示す説明図である。

【図3】従来のタオルで背中を洗う状態を示す説明図である。

【考案を実施するための形態】

【0011】

以下、本考案にかかる身体洗い器具の形態例を、図1及び図2に基づいて説明する。

この身体洗い器具は、肌を擦る細長帯状の布部10と、その布部10の両端に配させて使用者が把持できるように細長く設けられた柄20と、布部10と柄20とを両者の端部11、21同士において連結する紐30とを備える。すなわち、細長帯状の布部10と、一対の細長い柄20と、一対の紐30とによって構成されており、使用者が自身の背中の真ん中をより容易且つ適切に洗うことができる。

【0012】

また、本形態例の布部10は、布素材を複数枚重ねて縫い合わせて形成され、両端部11、11が、紐30を通すことができる連通空間となるように布素材が折り曲げられ、その折り曲げられた形態で縫い合わされることによって設けられている。これによれば、布部10を容易且つ合理的に製造できる。

【0013】

また、本形態例では、布部10の両端部11、11の連通空間12と、柄20の先端部21に設けられた貫通孔21とに紐30を通し、その紐30を輪にして結び、布部10と柄20とが両者の端部11、21同士において連結されている。これによれば、布部10と柄20とを紐30によって容易且つ合理的に連結し、本形態例の身体洗い器具を好適に製造できる。

【0014】

この布部10は、一定の幅と厚さに縫製されているため、使い易い。例えば、長さが50cm、巾が5cm、厚さがタオルを数枚重ねて縫い合わせた形態とすることができる。

【0015】

また、柄20は、細長い棒状に形成されており、握り易く、特に握力の弱い高齢者等にとっても楽に持てる形態になっている。図1及び図2に示すように、本形態例では、先端部21に比べて後端部23の側が太くなるように形成されている。これによれば、握られた柄20が、抜けにくい形状になっている。なお、柄20の材質としては、木材やプラスチックを用いることができ、木材によれば、肌触りがよく、把持した場合に滑りにくいなどの効果がある。

【0016】

また、紐30は、布部10と柄20とを連結させるだけでなく、どの方向にも自由に曲げることができるため、使用者は布部10を自在に操作できる。例えば、図1の下側に示した紐30のように捩じれた状態でも、使用者は柄20を好適に把持した状態で布部10を自在に操作できる。

【0017】

10

20

30

40

50

従って、本形態例の柄 20 によれば、図 2 に示すように、布部 10 を楽に背中中央の凹部等に誘導でき、布が肌に密着して良く洗うことができる。すなわち、背中全体を含め身体を効率よくきれいに洗うことができる。また、この身体洗い器具を用いて、健康増進のための乾布摩擦を行う際にも、布部 10 を背中中央の凹部等に容易に誘導できる。このため、乾布摩擦を好適に行うことができ、健康増進の効果を高めることができる。

【0018】

布部 10 には、外面側に絹布等の肌に優しい布を配し、内部にはふくらみを形成し易いと共に乾燥し易いポリエステル等の化学繊維等を内蔵することによって、より機能を高めることができる。外面側に絹布を配した布部 10 を用いて肌を洗うことで、絹による美肌効果があり、布部 10 をたたんで、顔や体全体を洗うこともできる。

10

【0019】

以上、本考案の一形態例を説明したが、本考案はこの形態例に何ら限定されるものではなく、本考案の精神を逸脱しない範囲において、種々の形態で実施し得ることは勿論である。

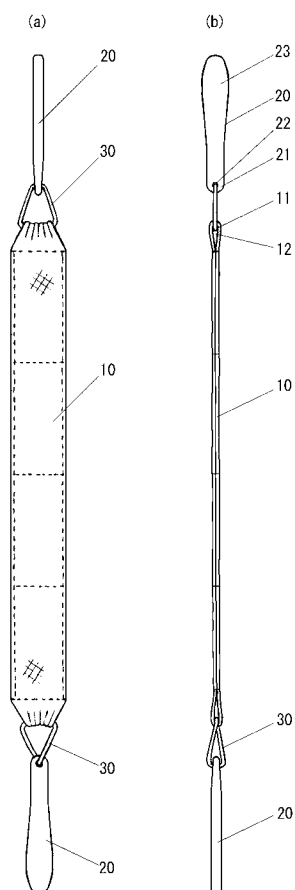
【符号の説明】

【0020】

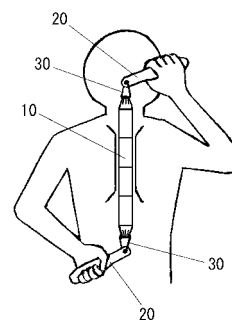
- 10 布部
- 11 端部
- 12 連通空間
- 20 柄
- 21 先端部
- 22 貫通孔
- 23 後端部
- 30 紐

20

【図 1】



【図 2】



【図 3】

